

| | | | | | | |
|--------|-----|--------------|-----|----------------------------|-------|-------|
| 施策 No. | 政策名 | 活力ある産業のまちづくり | 主管課 | 商工観光課 | 主管課長名 | 鈴木 政俊 |
| 4-3 | 施策名 | 観光の振興 | 関係課 | 農林課、生涯学習課、都市整備課、企画課、ヤマザクラ課 | | |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的 | 施策の対象 | 対象指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 |
|-----------------|--|------------|-----------|-----|--------|---------|---------|---------|---------|
| | | 桜川市に訪れる観光客 | ①1都、6県の人口 | 千人 | 見込値 | 43,285 | 43,385 | 43,485 | 43,585 |
| 実績値 | 43,285 | | | | | | | | |
| | | | | | 見込値 | | | | |
| 実績値 | | | | | | | | | |
| 目的 | 施策の意図 | 成果指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 |
| | 交流人口増よりにぎわいが生まれ、経済が活性化している。 | ①観光客入り込み客数 | 人 | | 目標値 | 350,000 | 360,000 | 370,000 | 385,000 |
| 実績値 | | | | | | | | | |
| ②イベント来場者数 | | 人 | | 目標値 | 50,000 | 55,000 | 60,000 | 65,000 | 70,000 |
| | | | | 実績値 | 45,000 | | | | |
| ③お土産品開発数(5カ年累計) | | 件 | | 目標値 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | | | 実績値 | 2 | | | | |
| ④観光協会会員数 | | 人 | | 目標値 | 160 | 170 | 180 | 190 | 200 |
| | | | | 実績値 | 154 | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①観光客の動向 ②交流人口による地域のにぎわい ③経済への貢献度 ④観光に関心を持つ人材の発掘・育成 | | | | | | | | |
| 成果指標の把握方法と算定式等 | ①茨城県観光客動態調査による数値(真壁のひなまつり、桜祭り、真壁祇園祭、みかん狩りを含む)とキャンプ場2カ所の利用者数 ②SAKURAフェスティバル、納涼大会、地域・市民主体によるイベント等の来場者数(岩瀬駅前夏祭り、かつたて祭り、十三夜祭、まかべ日和、秋さんば、森コミ市等) ③経済活動を意識した観光客向けお土産品の開発件数 ④観光協会の会員数 | | | | | | | | |

2. 施策の成果水準とその背景・要因

| 1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?) | | | |
|---|---|---|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した | <input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった | <input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
| | <input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった | <input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した | |
| 背景・要因 | ①真壁のひなまつりの観光客は減少傾向にあるが、ヤマザクラの観光客が増加しており、観光客入り込み数はほぼ横ばいに推移している。 ②つくば霞ヶ浦りんりんロードの活用など、広域連携による観光客の誘致が進んでいる。 ③製造業者による土産品づくりも動き始めてきた。 ④市民主体によるイベントが多く開かれるようになり、観光まちづくりの機運が高まりつつある。 | | |
| 2) 成果目標の達成状況 | | | |
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った | <input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った | |
| 背景・要因 | ①29年度の観光客入り込み客数は確定数が出ていないため空欄であるが、大きな増減はないため横ばいと判断した。 ②イベント来場者は目標値50,000人に対し実績値45,000人と目標値を下回った。市民主体のイベントは始まったばかりのものが多く今後の活動に期待したい。 ③お土産品開発件数は目標値どおりの成果であった。 ④観光協会会員数は目標値160人に対し実績値154人であり、若干目標値を下回った。 | | |

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

| 施策の成果実績に対するの総括 | 今後の課題・方針 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・29年度は観光まちづくりをテーマに、市民が主体的に取り組む活動を支援する方向で事業を展開した。 ・29年度に貢献した事業は「真壁のひなまつり支援事業」「観光パンフレット作成配布事業」「観光協会運営支援事業」「上野沼やすらぎの里管理運営事業」であった。 ・「真壁のひなまつり支援事業」は観光客はやや減少したが、市民が主体となり観光客から高い評価を得ている。 ・「観光パンフレット作成配布事業」は29年度にリニューアルし見やすい冊子タイプとした。また、英語版の観光パンフレットも作成し配布した。 ・「観光協会運営支援事業」は会員が取り組む観光事業を支援し、新たな観光まちづくりの一助となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単なる観光客の増加を狙うのではなく、域内消費を意識した滞在型観光(体験ツアーやお土産品の開発など)への取り組みが必要である。 ・市民が主体となる観光まちづくりを進め、市民の観光への関心を高めていく必要がある。 |